

## 大腸がん検診を受けられる方へ

大腸がんは、近年増加しており、男性・女性とものがんが原因で亡くなる場合の上位に位置しています。

大腸がん検診（便潜血検査）を受診することによって早期に大腸がんが発見され、大腸がんが死亡する確率が減少することが明らかになっています。

大腸がん検診は、1年に1回継続して受けることが大切です。ただし、血便などの自覚症状がある場合は、医療機関を受診してください。

### 【検診の不利益について】

便潜血検査には限界があり、100%大腸がんを発見できるわけではありません。

がんがあっても「異常なし」と判定されることがあります。（偽陰性）

また、がんがなくても精密検査が必要と判定されることもあります。（偽陽性）

検診には、このような不利益が生じることがあります。

### 【検診後の精密検査について】

便潜血検査の結果が陽性となった場合は、必ず全大腸内視鏡による精密検査を受けてください。

全大腸内視鏡検査は、肛門から内視鏡を挿入し大腸の状態を観察する検査です。

その際、病変の一部をつまみとる（生検）ことがあります。（全大腸内視鏡検査が困難な場合は、S状結腸内視鏡検査と注腸エックス線検査の併用となります。）

なお、精密検査として便潜血検査の再検査は行わないで下さい。

再検査で陰性となっても、がんがないとは言えません。

### 【個人情報の取扱いについて】

豊中市が行うがん検診では、検診の精度管理のため、精密検査が必要になった方の検査結果や治療の受診状況などを市と検診実施機関と精密検査実施機関で共有します。

また、精密検査の受診状況について市からご連絡させていただくことがあります。

ご理解とご協力をお願いいたします。